

令和6年度
焼津漁港地区海業振興に向けた検討会
(第1回)

2024年7月30日(火)

1. 海業とは
2. 焼津漁港地区における海業振興の背景
3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題
4. 焼津地区における海業再構築のための取り組み内容案
5. その他
 - 今後の海業取組の優先度と今年度の取組方針について
 - その他参考資料

1. 海業とは

- 漁村では、全国平均を上回る速さで人口減少や高齢化が進行、活力が低下。
- 一方、**漁村の交流人口**は約 2 千万人と**大きなポテンシャル**有。

⇒ **漁村の賑わいの創出**が重要。

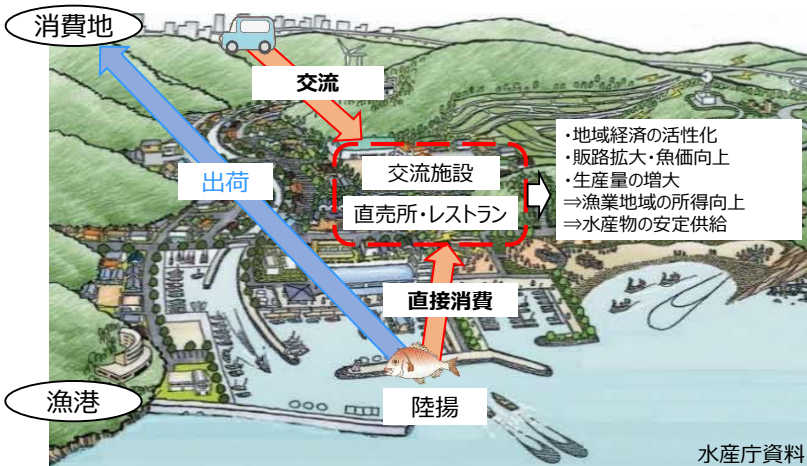
海業
とは

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、国内外からの多様なニーズに応えることにより、**地域のにぎわいや所得と雇用**を生み出すことが期待されるもの。
(水産基本計画)



漁港の役割

水産物の直接消費や漁業体験など貴重な**体験の場**を提供していく**役割**の重要性が増大。



焼津漁港のこれまでの整備は・・

海業

2. 焼津漁港における海業の背景-1

(焼津市の概要-1)

■ 概要・位置・交通条件

焼津市は、関東と関西を結ぶ東海道のほぼ中央に位置し、東名高速道路をはじめ、国道1号や東海道本線（新幹線静岡駅も近接）により、大都市圏と結ばれており、東京、名古屋の大都市圏まで東名高速道路を利用して約3時間の時間距離という交通アクセス、地理的条件上の優位性を持っている。2024年に開港15周年を迎える国内線・国際線（中国、台湾、韓国）を持つ富士山静岡空港も近接しており、焼津市はアジア系利用者の一部一時宿泊需要地となっている。

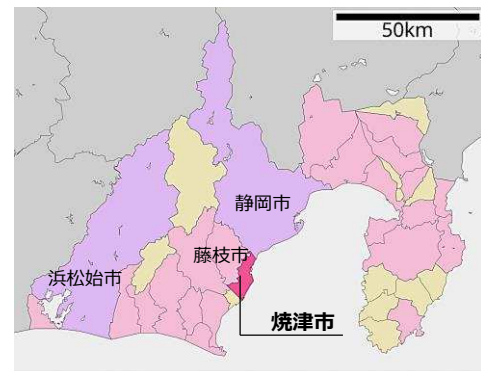
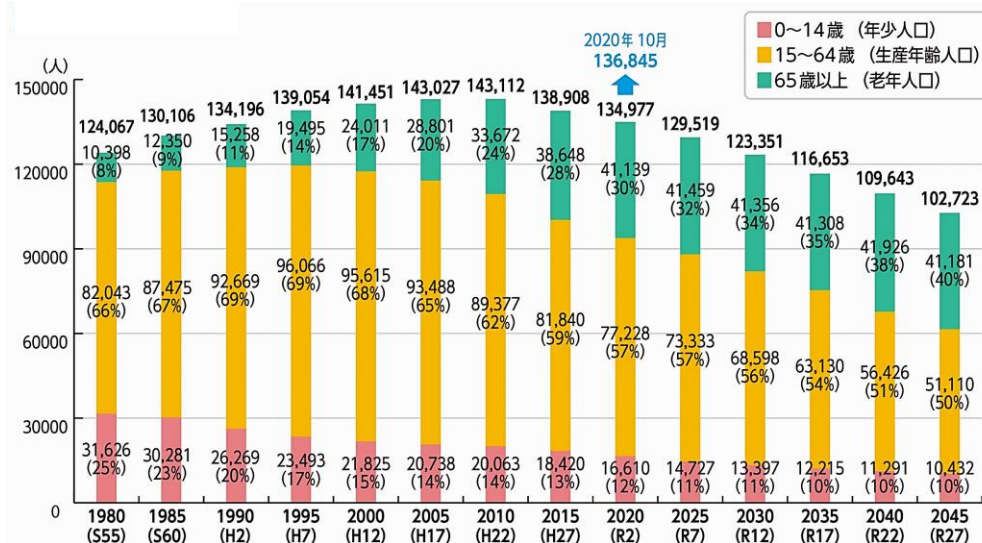


図-焼津市の位置

■ 人口

焼津市の人口は2010(H22)年の143,112人をピークに減少局面に入っており、2018(H30)年3月の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)によれば、2045(R27)年時点での総人口は、102,723人と推計されている。また、高齢化率は、2045(R27)年時点で40%まで増加すると推計されている。

なお、2020(R2)年国勢調査確定値では、総人口は136,845人（高齢化率=29.9%）で、高齢化率は推計と変わらないが、将来推計人口（134,977人）を上回る結果を示している。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所のデータ（2018年3月公表）に基づく推計値。2015年以前の実績値は、総人口から年齢不詳の人口を除く。また、構成比の数値は、小数点以下第1位の四捨五入により、値の合計は必ずしも100%とはならない。

図-焼津市の人口推移と将来予測

2. 焼津漁港における海業の背景-2

(焼津市の概要-2)

■ 漁業・水産業

(漁業)

・焼津市は、特定第3種焼津漁港（小川地区含む）と大井川漁港を基地として、遠洋・沖合・沿岸漁業が盛んであり、特に**焼津漁港は、カツオ・マグロを中心とした遠洋漁業の全国的拠点漁港の性格を持ち、全国随一の陸揚げ金額**を誇る。→**焼津市の「水産都市」、「さかなのまち」の性格を規定**

・漁協は、焼津漁港を根拠とする焼津漁業協同組合、小川漁業協同組合、大井川港漁業協同組合の3漁業協同組合が立地している。

・焼津市の漁業の中核である焼津漁港では、近年、回復傾向にあった水揚げが、2020（R2）年度には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、水揚量、水揚額ともに減少している。

・近年、大井川漁港の桜えび、焼津漁港小川地区のゴマサバ漁の不漁が続いている。

・消費者の魚離れの進行による、水産物消費需要や単価の頭打ち傾向が見られる。

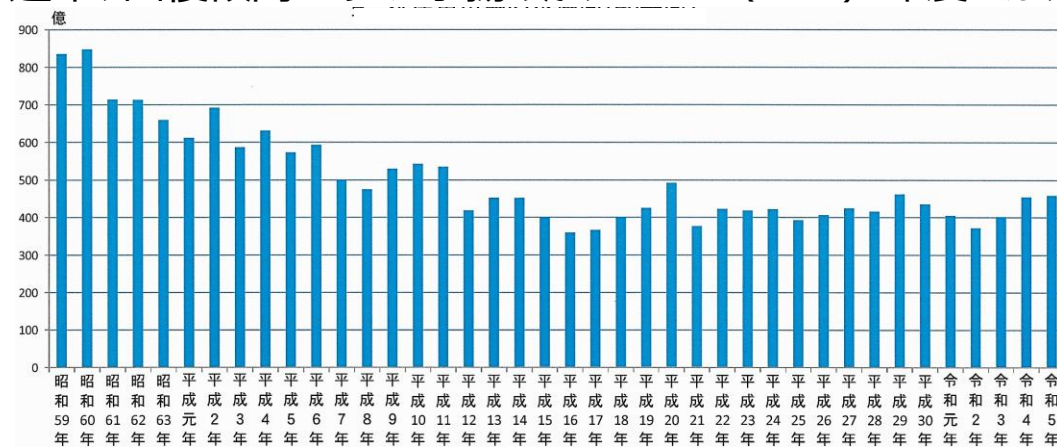
・漁業就業者のうち若年層（39歳以下）の人数は増加しているが、50歳以上が占める割合は55%を超え、漁業の担い手の高齢化が進んでいる。

(水産業)

・焼津市の水産加工事業所数は133と全製造業事業所数528の25.2%

・水産加工事業所の製品出荷額は1,680億円と、全製造業事業所商品出荷額6,033億円の27.8%に達する。

近年、回復傾向にあった水揚げが、2020（R2）年度には、



年度	水揚額(円)
昭和59年	83,602,953,964
昭和60年	84,804,143,153
昭和61年	71,407,885,443
昭和62年	71,325,778,055
昭和63年	65,949,884,266
平成元年	61,212,171,226
平成2年	69,206,692,470
平成3年	58,697,198,293
平成4年	63,069,532,749
平成5年	57,311,214,730

年度	水揚額(円)
平成6年	59,325,201,386
平成7年	50,045,763,283
平成8年	47,507,879,305
平成9年	52,960,353,287
平成10年	54,288,467,462
平成11年	53,490,476,298
平成12年	41,904,627,047
平成13年	45,271,992,289
平成14年	45,267,096,733
平成15年	40,029,558,418

年度	水揚額(円)
平成16年	35,991,655,805
平成17年	36,703,780,825
平成18年	40,162,129,351
平成19年	42,532,503,575
平成20年	49,235,417,370
平成21年	37,691,723,446
平成22年	42,308,513,662
平成23年	41,868,263,175
平成24年	42,251,341,221
平成25年	39,308,168,258

年度	水揚額(円)
平成26年	40,635,250,595
平成27年	42,481,125,474
平成28年	41,594,237,915
平成29年	46,254,402,922
平成30年	43,569,378,045
令和元年	40,497,538,728
令和2年	37,190,259,288
令和3年	40,208,659,246
令和4年	45,469,245,152
令和5年	45,898,606,329

資料-令和5年度水揚高統計（焼津漁業協同組合）

図-焼津魚市場の水揚げ高の推移

2. 焼津漁港における海業の背景-3

(焼津市の概要-3)

■ 焼津漁港の概要

- ・全国有数の水揚げを誇る焼津漁港は、静岡県中央に位置し、関東と関西を結ぶ東海道のほぼ中央という交通アクセスにおいて好条件な漁港で、「水産文化都市づくり」を目指す焼津市の中核として役割を持つ。
- ・焼津漁港には焼津地区(焼津漁協根拠)、小川地区(小川漁協根拠)がある。焼津地区は、江戸時代よりカツオ漁が盛んな場所で、更なる漁港の機能の拡大をはかるため「新港地区」が造成され、現在はかつお・まぐろを主とする遠洋漁業の基地となっている。一方、小川地区は、さば・いわし・あじなど多獲性魚対象の沿岸・沖合漁業の基地となっている。
- ・継続的な小川地区を含めた焼津漁港の整備により、**本来の漁業、水産業振興機能の充実と共に、「開かれた漁港」**として漁業関係者以外の人々も利用できるような親水広場や多目的広場などの整備が行われた。
- ・一方、漁業最盛期の要請に応じて整備された焼津漁港では、広大な用地整備の結果、**一部低利用用地の有効活用や背後市街地や市民生活と海辺（漁港）空間の連携の必要性等**が課題となっている。

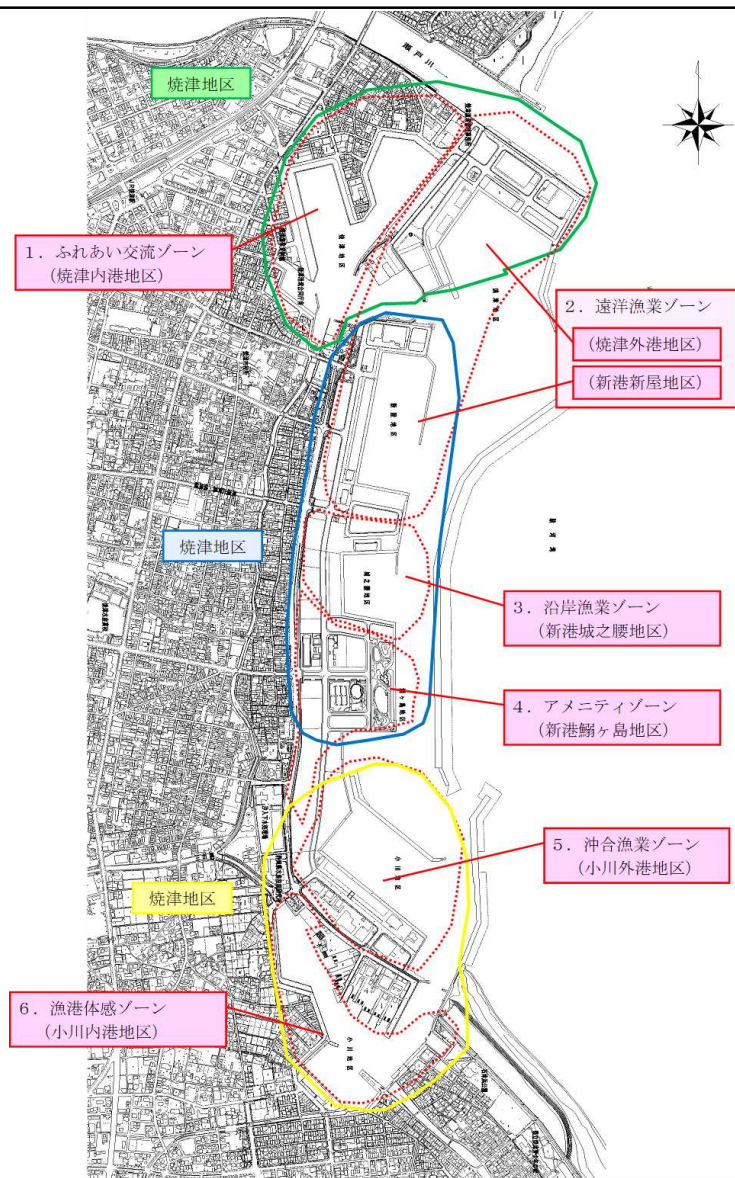


図-焼津漁港マスタープランゾーニング

2. 焼津漁港における海業の背景-4

(焼津市の概要-4)

■ 観光交流客数・宿泊率

- ・焼津市の観光交流客数はコロナ禍前[(2013(H25)-2019(R1年))の平均で**約400万人**であり、微減傾向で推移→その後徐々に回復傾向
- ・市内**宿泊率は約10%**と低い水準で推移しており、日帰りの来訪者が多い

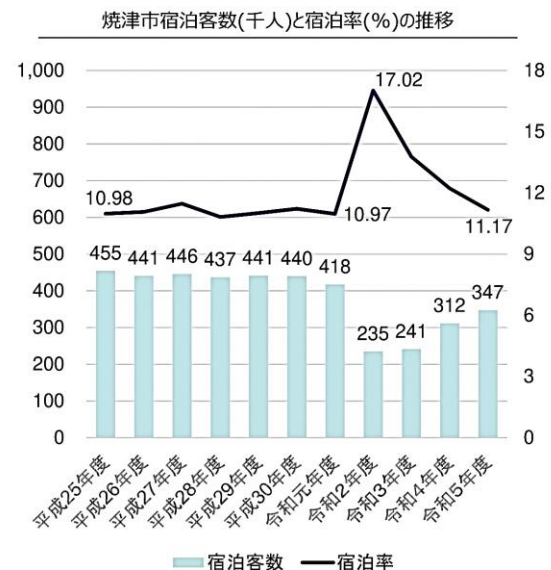
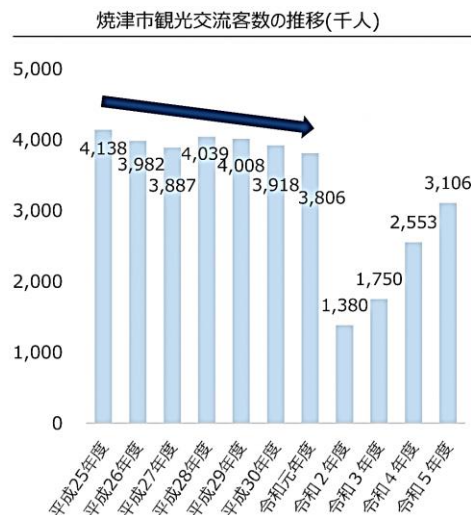
(観光特性)

- ・焼津市来訪者の世代は**50代が一番多く、ボリューム層は40~60代**である
- ・男女比は**女性の方がやや多い**
- ・来訪人数は2人が最も多く、次いで3~5人となっている
- ・旅行形態は「**家族**」が多く、来訪者の居住地は**静岡県内、次いで関東、東海地方**となっている

(インバウンド)

- ・焼津市の外国人宿泊客数はコロナ禍前[(2013(H25)-2019(R1年))の平均で**約1.7万人(0.43%)**
- ・外国人宿泊客数は**全体の10%未満**と低い水準であり、ゴールデンルート上の通過点としての宿泊が主体であったため、他地域との競争激化により、2016(H28)年度をピークに減少。コロナ禍によりさらに減少した。2023(R5)年度の全宿泊客数に占める割合は1.1%である
- ・コロナ禍前は**全体の約9割が中国・韓国・台湾**のアジアからの来訪となっていた(平成29年度)

出典：焼津市観光戦略(焼津市商工観光課)



出典：静岡県「令和4年度 静岡県観光交流の動向」

図-焼津市の観光交流客数と宿泊率の推移

2. 焼津漁港における海業の背景-3

①焼津市は、漁業・水産加工業を基幹産業とする水産都市を形成

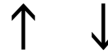


※基幹産業を支える焼津漁港の水揚量・金額は最盛期の半分以下に縮小

※今後も減少傾向が見込まれる（焼津の漁業・水産加工業を支える遠洋漁業に関わる「漁船数減少」、「船員の担い手不足」、「資源の減少」、「資源管理の強化」等）



②焼津水産業のみならず、地域全体の活力低下・衰退への危惧



-焼津の主な強み・資源-

I. 静岡市、東京圏、名古屋圏との近接性と広域交通利便性の高さ（新幹線、東名高速道路、静岡空港等）→※静岡空港利用インバウンド実績

II. “さかなのまち”, “港まち”としての全国的知名度

III. 全国有数のマグロ、カツオ等の水産物や関連水産加工品の集積

IV. 漁業・水産業にまつわる伝統的な街なみ（焼津及び小川内港地区や浜通り他）

V. 富士山・駿河湾を望む雄大で美しい自然景観

VI. 焼津温泉他多くの地域資源

VII. 特 3 焼津漁港における有効活用可能な既存ストックの存在

海業（水産業と観光業等の関連産業の掛け合わせ）の振興

- 豊富な地域資源や強みと焼津漁港区域内の既存ストックの活用
- 新制度の活用、官民連携、インバウンド対応、これまで取組事例の少ない挑戦的な取組



地域全体の活性化（水産業の発展、地域の所得・雇用創出等）

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-1

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-1

- ・焼津漁港の長い施設整備の歴史の中で、市民や観光客が来訪する観光・交流施設が整備されたが、主な施設は、鰯ヶ島地区に集中し、焼津市街地や漁港全体の波及が限定している中、焼津内港地区に新たな海業展開の可能性を持つ「焼津PORTERS」が2023年5月に開業した。
- ・焼津漁港区域内で長期間に続く集客事業は、①焼津みなとまつり（4月）、②焼津海上花火大会（8月）、③小川港さば祭り（11月）で、③については2020年以降休止中である。一方、2023年から、④焼津魚（とと）フェス（11月）がスタートしたが、いずれも年1回のイベント的取組である。

（これまでの取組）

（主なハード）

（焼津漁港区域内の主な集客・活性化施設）

①アクアスやいづ（深層水利用タラソテラピー施設）

- ・深層水利用促進交流施設「深層水ミュージアム」
- ・深層水取水・脱塩・供給施設等関連施設

②うみえーる焼津（地域産物販売施設）

③ふいしゅーな（焼津漁港親水広場）

（焼津漁港区域外の主な集客・活性化施設）

④焼津さかなセンター（東名高速焼津IC）等

（近年の取組）

（ハード）

・焼津PORTERSの整備・運営（民間事業者との協働）

- ・歴史的建造物である焼津内港地区に立地していた古い漁具倉庫をリノベ→焼津らしさを体験できる滞在施設の創出（2023年5月開業）
- ・地場水産物活用レストラン、物販店、ワーケーション需要に対応したコワーキングスペース、宿泊施設（※整備未了）

地域住民＋首都圏等からの利用者誘致期待

（実績）

- ・水産加工品等の販売額=787万円、雇用創出=6人(2023.5～12)

（ソフト）

A.焼津みなとまつり（毎年4月第1日曜日開催 2024年で70回目の開催となる）

B.焼津海上花火大会（毎年8月のお盆前後 2024年で49回目の開催となる）

C.小川港さば祭り（毎年11月の第1土曜日開催 2019年の14回目の開催で休止）

D.焼津魚（とと）フェス（11月第1日曜日開催 2023年～）

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-2

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-2



図-焼津漁港地区におけるこれまでの取組位置図

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-3

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-3

3-1. 焼津漁港区域内の主な集客・活性化施設の概要

① アクアスやいづ

アクアスやいづは、焼津漁港鰯ヶ島に、うみえーる焼津と近接して立地する公設民営（市→指定管理）の施設。駿河湾の海洋深層水を利用した海洋療法による市民の健康増進を目的としており、温水プールやフィットネス施設等があり、市民を中心に利用されている。



(アクアスやいづの外観)



(海洋深層水利用プール)



(フィットネス施設)

② うみえーる焼津

うみえーる焼津は、焼津漁港鰯ヶ島に、アクアスやいづと近接して立地する物販・飲食施設である。市民や観光客を対象に、焼津市の水産物を知り、味わうことを目的に整備された。1階は物販ゾーン、2階は飲食ゾーンとして合計4店舗が入店している。



(うみえーる焼津の外観)



(1階物販フロア)



(2階飲食店提供料理)

③ ふいしゅーな

鰯ヶ島地区に、市民に開かれた親水広場等整備（2009年～2016年）



(親水広場ふいしゅーな：2009年3月竣工)

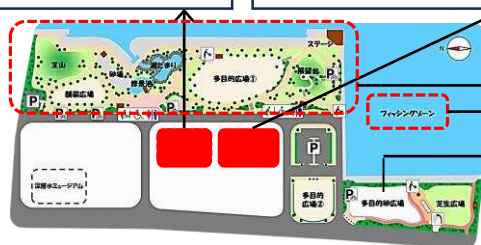


(親水施設・フィッシングゾーン：2009年3月竣工)



(多目的広場：2016年8月竣工)

焼津漁港鰯ヶ島地区における各施設の立地状況



3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-4

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-4

3-2. 焼津漁港区域内の主な集客・活性化ソフトの概要（長期継続イベント）

A. 焼津みなとまつり

焼津みなとまつりは、毎年4月第1日曜日頃に開催され、**70回目**に当たる2024(R6)年は4月7日に焼津漁港焼津地区内港第1船渠の旧魚市場跡地で開催された。

- ・出店：77店舗（市外16 市内61）
 - ・来場者：11,000人（前年比1.1倍）
- ※来訪者用駐車場の不足、1回/年開催にとどまる等の課題はあるが、70回にわたり開催されている点は特筆される。



(焼津みなとまつり開催の全景)



(ステージイベント)



(水産物直販)

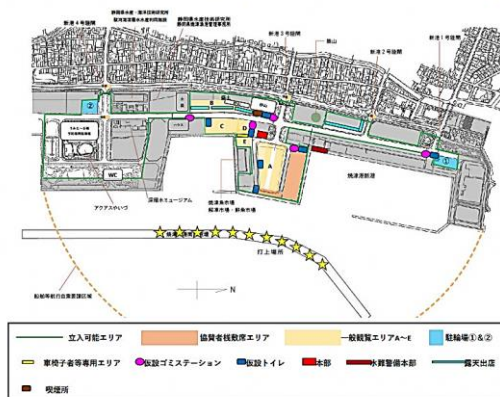
B. 焼津海上花火大会

焼津海上花火大会は、毎年8月~11月に開催され、2024(R6)年の8月開催予定を含めて、49回目となり、70回開催の焼津みなとまつりに次ぐ焼津漁港内開催の長寿イベントである。

- ・主会場来訪者=3万人(R5実績)



会場全体図 令和5年度 第48回 焼津海上花火大会 【令和5年11月3日（金・祝）18:00~19:00】



C. 小川港さば祭り

焼津漁港小川地区(港)の小川魚市場周辺で、さばの網焼きふるまいをメインに多様なイベントを開催し、1万人以上の参加者があったが、2019年(R1)の14回開催を最後に、休止中である。



(小川港さば祭りの焼きさばふるまい)



(小川港さば祭りの市場前の様子)

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題- 5

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-5

3-3. 焼津漁港区域内の主な集客・活性化ソフトの概要（新たなイベントの取組）

D. 焼津魚（とと）フェス

- ・2023（R5）年から、新たな焼津漁港を活用した集客・活性化イベントとして着手（11月開催）
- ・2024（R6）年11月10日（日）に第2回焼津魚（とと）フェス開催予定

【第1回焼津魚（とと）フェス開催（2023年11月）概要】

- 開催日程 2023年11月5日(日)
- 開催時間 10:00～15:00（雨天決行・荒天中止）
- ※設営：11月4日(土)、撤去：11月5日(日)15:00～
- 開催場所 焼津漁港特設会場（焼津漁港新港城之腰岸壁）
- 入場料 無料
- 来場者数 14,562人（うちブース来場者数 7,872人）
- 合計売上 487万円
- 主催者 焼津市
- 開催内容 焼津の漁業や水産文化等の魅力を広く発信するイベント「魚(とと)フェス」を初開催。焼津市内の水産品を中心とした飲食・物販などの出店やステージイベントが楽しめる。

<開催イベント>

- ・全国カツオまつりin焼津
- ・焼津遺産フォーラム

主催：全国カツオまつりサミットin焼津実行委員会

主催：焼津遺産フォーラム実行委員会

<主な体験ブース>

- ・調査船「駿河丸」一般公開 実施：静岡県水産・海洋技術研究所
- ・実習船「リサーチ」一般公開 実施：静岡県立焼津水産高等学校
- ・カツオ一本釣り模擬体験 実施：静岡県立焼津水産高等学校
- ・ロープワーク体験 実施：静岡県立漁業高等学園



（焼津魚（とと）フェスの開催状況写真）



図－焼津魚(とと)フェス会場 11

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-6

● 焼津漁港地区におけるこれまでの取組状況-5

3-4.新たな焼津漁港区域内の主な集客・活性化施設整備の概要（焼津PORTERS）

古い漁具倉庫のリノベーションによる新たな交流と賑わいの場の創出

- 場所：焼津漁港焼津地区内港第1船渠北側
- 取組：焼津漁協所有の老朽化・低利用漁具倉庫を民間活力を活用してリノベーションし、焼津らしさを体験できる滞在施設として再生
2023年5月に開業
- 施設：①コミュニティスペース
②コワーキングスペース
③フードコート（カフェ等3店舗）
④テナント（サウナ、ホットドッグ店）
⑤宿泊施設Re：PORT HOTEL全7室／うち3室が2024年夏オープン予定）
- 実績：（R5.8月～12月）
 - ・施設内店舗水産加工品等の販売額=787万円
 - ・雇用創出=6人（うち1人は地域おこし協力隊）



（焼津漁港焼津内港第1船渠の旧焼津漁協漁具倉庫）



（リノベーション後の焼津PORTERS概観）

YAIZU PORTERSで目指す「海業」の姿

① 魚食文化の発信拠点	・ 地元水産物を活用したレストラン ・ 地元水産加工会社の伝統技術を生かした商品の開発・販売 ・ 地元産品を販売するマルシェの開催 ・ イベント開催（県はんげんぎネス、つりワーケーション等）	・ 水産物の販売増（直接・長期） ・ 水産事業者が消費者と繋がる機会の獲得（BtoBからBtoCへ） ・ ブランド化等による高収益化
② にぎわい・交流拠点	・ 宿泊施設等の整備による市外からの観光客の受け入れ ・ 体験型コンテンツの充実による滞在時間の延長 ・ ワーケーション拠点整備による首都圏等からの人流の創出 ・ イベント開催等による市民（特に若い市民）の交流	・ 内港地区のにぎわい創出 ・ 長期的な関係人口の獲得 ・ 市内外の人（特に若者）が集まるにぎわい拠点へ（人口流出阻止）
③ イノベーション拠点	・ ワーケーション拠点整備による複業人材、ベンチャー誘致 ・ 複業人材、ベンチャー等の活用による地元企業の課題解決 ・ イノベーション創出イベントの実施（Maas研修会等） ・ 地元高校生へのIT教育	・ 市内水産企業の課題解決による生産性向上や所得向上 ・ 市内発の新たな事業創出による雇用の創出

多様な側面から水産業・地域を活性化する拠点へ



（焼津PORTERS内観：左＝飲食店、右＝コワーキングスペース）

3. 焼津漁港地区におけるこれまでの取組と課題-7

● 焼津漁港地区における主な課題

1. 地域のにぎわいや所得・雇用の創出や地域活性化に着実につながる海業の推進
2. 新港地区や小川地区における海業推進の核となる施設の整備
3. 二次交通の整備による広い漁港全体の活性化
4. インバウンドなど新たな観光需要への対応
5. 地域資源を活用した観光コンテンツの開発・パッケージ化による滞在の長期化
6. 既存の漁港区域内施設の利活用促進
7. ITの活用による水産業の持続的な発展

● 焼津漁港地区海業の再構築・補強による課題の解決（案）

- ① 焼津PORTERSの取組強化・横展開
- ① 経済波及効果の検証(PDCA)
- ② 新制度（漁港施設等活用事業）を活用した宿泊・観光施設等の整備
- ③ 二次交通の整備
- ④ インバウンド等新たな観光需要への対応
- ⑤ 観光コンテンツの開発・パッケージ化
- ⑥ 既存の漁港区域内施設の利活用促進
- ⑦ メタバース等を活用した体験・教育コンテンツの開発 等

4. 焼津地区における海業再構築のための取り組み内容（案）

＜取 組＞

＜取組イメージ＞

＜取組主体＞

＜今後やること(案)＞

①
焼 津
PORTERS
の取組強化
横 展 開

多様な産業とのコラボにより、多面的に水産業・地域活性化（海業）拠点として発展を図る

民間事業者

※2023年5月に運営開始。既に一定の効果を発揮しているが、焼津漁港や焼津市全体の海業・観光振興との連携未確立

短期

ソフト対策

◆今後検討すること（案）

- 焼津海業拠点形成とネットワーク化
- 施設魅力向上
 - ・宿泊機能、多様な体験メニュー創出
- 多様な支援組織のネットワーク化
- 集客ターゲット明確化・集客方法 等

◆今年度やること（案）

- 運営事業者間取調査
 - ・運営上の課題・今後の発展方向等
- 利用者アンケート調査
 - ・満足度、今後の魅力向上意向等

①
経 済 波 及
効 果
の 検 証
(PDCA)

海業計画の経済波及効果を測定（市産業連関表等）とともに、海業の取組内容の更なる改善

焼津市

※基本は、策定計画に基づく経済波及効果測定（市の既存産業連関表利用）と各種アンケートや社会実験結果による海業取組計画内容の改善をPDCAの視点で継続的に実施

短期

ソフト対策

◆今後検討すること（案）

- 焼津漁港地区の海業計画策定
- 上記に基づく経済波及効果の測定
- 継続的社会実験と意向調査による計画の改善と経済波及効果測定

◆今年度やること（案）

- 海業計画の確定に基づく、経済波及効果の測定
- 本事業他によるアンケート調査を利用した海業計画内容の改善

<取組>

<取組イメージ>

<取組主体>

<今後やること(案)>

② 漁港内公共 用地での宿 泊・観光施 設等の整備 (民間活力)

「漁港施設等活用事業」
を活用した、民間活力よ
る宿泊・観光施設等の整
備検討

民間事業者
焼津市
静岡県等

※焼津漁港では、既に民間活力により、焼津PORTERSを整
備・運営して一定の成果を達成している実績がある

短期

ソフト対策

中期

ハード対策

◆今後検討すること(案)

- 取組が比較的容易な汐入護岸背後のふいしゅーな関係用地のR Vパーク整備・運営(運営事業者の募集)
- 鰯ヶ島地区30号道路に接する広大な私有地の有効活用検討

◆今年度やること(案)

- R Vパーク実証実験
- 利用者アンケート調査
- 漁港内低利用地の有効活用可能性検討 等

③ 二次交通の 整備

広大な焼津漁港の回遊
性を高め、海業施設を
ネットワーク化し、来訪者
の滞在時間を延伸する
二次交通の整備

民間事業者
焼津市

※焼津漁港自体が広大なため、海業施設間の移動は徒歩で
は難しく、面的波及や広域的効果波及が得にくい

短期

ソフト対策

短期

ハード対策

◆今後検討すること(案)

- カーシェアリング、電動キックボードや自転車等のレンタルシステム(漁港内立入禁止ゾーンや安全な回遊ルートの設定等含む)の導入
- 返却施設の配置
- 安全対策・法令順守

◆今年度やること(案)

- 二次交通導入可能性検討

<取組>

<取組イメージ>

<取組主体>

<今後やること(案)>

④ インバウンド 等新たな 観光需要への 対応

近年、拡大を続けるインバウンド需要（※特に富裕層）を取り込むための検討

民間事業者
焼津市

※静岡空港夜間到着便利用の中国・韓国の観光客が目的地に行くまでの一次宿泊場所として焼津を選択する面があり、彼らの滞在期間の延長を促す取組も有効か？

※併せて、日本人富裕層誘致可能性検討

短期

ソフト対策

中期

ハード対策

◆今後検討すること（案）

- 外国人対象モニターツアーの実施
- インバウンド需要対応型の宿泊・観光施設の整備、まちづくり等
- 外国人受入体制の構築
- インバウンド誘致情報受発信

◆今年度やること（案）

- 焼津市インバウンドの実態把握
- インバウンド客（※特に富裕層）の要望把握（※旅行代理店、市観光協会、市ホテル・旅館組合、市商工会議所等意見交換等）

⑤ 地域資源を 活用した観 光コンテンツ 開発 パッケージ化

独自の漁業文化がかおる浜通りの街並みなど漁港区域外の地域資源も含めた観光コンテンツ開発とワンパッケージ化

民間事業者
漁協
水産加工業者
その他

※ワンパッケージメニューには、浜通りの魅力向上に加え、漁業体験や市場・加工場見学、漁船クルーズ等の体験メニュー開発と推進体制の確立が求められる

短期

ソフト対策

中期

ハード対策

◆今後検討すること（案）

- 活用資源の発掘と観光コンテンツ化調査
- 活用資源の観光コンテンツ化実践
- 活用資源ワンパッケージメニュー開発
- 担い手確保
- 集客・PRと実践

◆今年度やること（案）

- 実証実験（焼津魚(とと)フェス等）
- 参加者アンケート調査
- 活用可能性のある資源について検討

<取組>

<取組イメージ>

<取組主体>

<今後やること(案)>

⑥ 既存漁港区域 内施設の 利活用促進

漁港区域内の魚市場会館はじめ老朽化が進み低利用状況の施設の有効活用方法の決定

民間事業者も
漁協
焼津市

※対象施設の利活用を、海業振興全体計画との整合のもとに関係者の合意を前提に推進する

短期

ソフト対策

中期

ハード対策

◆今後検討すること(案)

- 魚市場会館を始めその他漁港区域内の低利用施設利活用計画の策定
- 事業者の決定と既存施設のリノベーション・解体新築費用・収支検討
- 海業振興全体計画と整合性のある当該施設の更新整備による利活

◆今年度やること(案)

- 魚市場会館利活用モデル検討
- その他低利用施設の抽出と利活用可能性の検討

⑦ メタバース 等を活用し た体験・教 育コンテンツ の開 発

メタバース等を活用した体験・学習コンテンツ開発・提供により、子供たちの水産業への理解増進につなげる

民間事業者
漁協
焼津市

※メタバースとは、コンピュータの中に構築された3次元の仮想空間やそのサービスをいう

短期

ソフト対策

中期

ハード対策

◆今後検討すること(案)

- メタバース活用コンテンツ内容の検討
- メタバース活用コンテンツ開発
- メタバースサービス施設の決定と関連機器・装置の整備
- 運営事業者の決定
- 海業全体と整合した事業実践

◆今年度やること(案)

- 焼津独自のメタバース内容の検討
- メタバースサービス施設（既存施設の活用か新たな施設整備か）の検討

焼津漁港地区での海業取組案イメージ

海業の取組概要

①焼津PORTERSの取組の強化・横展開

0

- ・「漁具倉庫」をリノベーションし、コワーキングスペース等を整備
- ・今後は、多様な産業とのコラボにより、多様な側面から水産業・地域を活性化する海業拠点として発展させる
- ・将来的には、PORTERSの取組・賑わいを点から面へ、焼津漁港、市全体に広げることを目指す



①経済波及効果の検証（PDCA）

全域

- ・焼津市産業連関表を活用し、経済波及効果を測定する
- ・アンケート等も活用し、海業の取組内容のさらなる改善を図る



②新制度「漁港施設等活用事業」を活用した宿泊・観光施設等の整備

2

- ・民間活力により焼津PORTERSを整備した実績を活かし、新制度「漁港施設等活用事業」を活用した、民間活力による施設整備に向けた検討を進める



③二次交通の整備

全域

- ・漁港区域の回遊性を高め、滞在時間の延伸を図るため、カーシェアリングや電動キックボードのレンタル導入に向けた検討を進める



④インバウンドなど新たな観光需要への対応

全域

4

- ・近年拡大を続けるインバウンド需要、特に富裕層を取り込んでいくための検討を進める



⑤観光コンテンツの開発・パッケージ化

全域

5

- ・漁港区域外の地域資源も含めた観光コンテンツの開発を行う
- ・ワンパッケージで提供し、滞在期間の長期化を図る



⑥既存の漁港区域内施設の利活用促進

6

- ・魚市場会館などの施設の活用方法を当事者間で協議



⑦メタバース等を活用したコンテンツの開発

7

- ・メタバース等を活用した体験・教育コンテンツを開発・提供することを目指す



5. その他

● 今後の海業取組の優先度と今年度の取組方針について

海業取組案	優先度	今年度の取組方針
① 焼津PORTERSの取組強化・横展開		○運営事業者間取組調査（運営上の課題・今後の展開方向意向等） ○利用者アンケート調査（満足度、今後の更なる魅力向上意向等）
① 経済波及効果の検証(PDCA)		○海業計画の確定とそれに基づく、経済波及効果の測定 ○本事業他によるアンケート調査を利用した海業計画内容の改善
② 新制度を活用した漁港内宿泊・観光施設等整備		○R Vパーク実証実験（別途） ○利用者アンケート（満足度、改善点等） ○漁港内低利用地の有効活用可能性検討@当検討会
③ 二次交通の整備		○二次交通導入可能性検討@当検討会
④ インバウンド等新たな観光需要への対応		○焼津市インバウンドの実態把握 ○インバウンド客の要望把握（旅行代理店及び当検討会意見聴取）
⑤ 観光コンテンツの開発・パッケージ化		○焼津魚（とと）フェスにおける実証実験 ○上記実証実験参加者アンケート調査 ○活用可能性のある資源に関する検討・意見交換@当検討会
⑥ 既存の漁港区域内施設の利活用促進		○魚市場会館利活用モデル検討・意見交換@当検討会 ○その他焼津漁港内低利用施設の抽出と利活用可能性検討・意見交換
⑦ メタバース等を活用した体験・教育コンテンツ開発		○焼津独自のメタバース内容の検討・意見交換@当検討会 ○メタバース・サービス施設（既存施設活用または、新施設整備）の検討 意見交換@当検討会

●その他参考資料

1. RVパーク

RVパークとは、キャンピングカーオーナーや車中泊ファンの方々に、『快適に安心して車中泊が出来る場所』を提供するために、日本RV協会が推進・公認している車中泊スペースである。「RVパーク」という名称は商標登録をしているため、認定された施設のみが名称を使用することができる。

資料-一般社団法人日本RV協会 RVパーク推進部

用宗漁港RVパーク

用宗漁港に近接して、2021年2月1日にオープンしたRVパークで、用宗漁港「用宗みなと温泉」や飲食店、海水浴場に近接



(駐車場)



(水道・流し)



(電源)

- ・1泊料金：3,500円／1台(トレーラー含む)
- ・チェックイン=13:00 ~ 17:00
チェックアウト=12:00
- ・利用可能台数：6台
- ・利用可能区画：4m×8m 5台
2.3m×8m(軽キャンがギリギリ) 1台

(施設概要)

- ・トイレ(24時間使用可能)
- ・ごみ処理対応(可燃ゴミのみ可：ゴミ袋1袋：200円)
- ・電源(あり：無料)
- ・水道(あり：無料)
- ・入浴施設(なし：近くの入浴施設利用)

西伊豆田子漁港RVパーク

西出町田子漁港内に整備され、2024年6月にRVパークの認定を受けている。サップ、シーカヤック等のアクティビティも楽しめる



(駐車場)



(アクティビティ)



(電源)

- ・1泊料金：平日4,000円、休前日5,000円、連休等特定日6,000円／1台(トレーラー含む)
- ・チェックイン=15:00 ~ 18:00
チェックアウト=11:00
- ・利用可能台数：8台
- ・利用可能区画：長さ7m 幅4.5m 高さ

(施設概要)

- ・トイレ(24時間使用可能)
- ・ごみ処理対応(可：ゴミ袋1袋：500円)
- ・電源(あり：無料)
- ・水道(あり：無料) 炊事場(あり：無料)
- ・コインランドリー、シャワー施設あり

2. 2次交通

二次交通の一般的定義は、拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通のことを言う。地域の観光地は、過疎化により鉄道やバスの便が悪いため、観光を振興させるには、自治体や民間企業が協力し観光地までのシャトルバスや乗り合いタクシーを運行し、レンタル自転車を整備するなど、旅行者の利便性を高める努力が必要となっている。また、観光地域が広域に及ぶ場合や、観光地が隣県の拠点からがむしろ近い場合などは、行政の枠を超えた広域内二次交通の整備が必要視されている。

資料- (株) JTB総合研究所資料より

※焼津漁港区域内での海業振興に当たっては、漁港空間が広大なため、独自の二次交通の開発が有効と考えられ、**既存の以下のような実例以外にも適切な手法を検討する必要がある。**

■カーシェアリング←※家族連れ等には便利

カーシェアリングとは、登録を行った会員間で車を共同で使用するサービスのこと。短い時間から車を借りることができたり、短い時間であればレンタカーよりも安価になるように設定されていることが多い。そのため、家族や友人の送迎や買い物など、ちょっとした用事や気分転換のドライブで気軽に利用することができる。短時間・高頻度で車を使いたいという人に向いている仕組みと言える。→※**既存のカーシェアリングシステムを焼津漁港区域内の海業振興型に改良する必要がある**
(一般的利用方法)

①事前に会員登録→②予約→③指定ステーションでロックをスマホや会員カードで解除→④運転→⑤必要に応じて給油や洗車→⑥もとのステーションに返却→⑦料金の支払い

■レンタル電動キックボード←※個人利用に便利（若者向け）

レンタル電動キックボードは、スマートフォンを使って気軽に利用できる新しい移動手段である。電動キックボードは、モーターで走るモビリティで、軽量でコンパクトなため持ち運びが便利で、ポートと呼ばれる移動のハブからポートへ乗り降りでき、あらゆる空間利用を活性化させることが期待されている。→※**焼津漁港区域内の移動手段としては比較的有效と考えられる。**



■レンタサイクル←※大都市・地方観光地等での利用実績もあり、焼津海業関係の導入可能性は高い

レンタサイクルは、自転車を有料で貸し出す事業のうち、長期の賃貸借（リース）ではなく、**数時間程度の短期の賃貸借**を指す。このシステムは、都市部でのラストワンマイルの補完や環境保護、渋滞や騒音、大気汚染の緩和を目指すために、市民の交通機関の選択肢として安価または無料で自転車を提供するコミュニティ自転車プログラムとして実施されている。具体には、大都市、辺地地域の移動手段として、官民の協働によって導入されている。

また、スマートフォンを利用した「自転車シェアリング」も普及しており、スマホの専用アプリで自転車を解錠し、町中にある駐輪エリアで乗り捨てできる便利なシステムとなっている。

代表的な観光現場におけるインバウンド対応の内容について、参考に国交省の当該事業内容を以下に示す。

令和6年度当初予算：990百万円の内数



訪日外国人旅行者の周遊の促進・消費の拡大を図るため、ICT等を活用した観光地の受入環境整備を支援する。

The illustration depicts a town layout with various landmarks and services. A pink line highlights a specific route through the town. Key locations and services shown include:

- 観光スポット (Tourist Spot):** Multiple locations marked with blue labels, including a traditional Japanese building, a modern building, and a shrine.
- 飲食店 (Restaurant):** A central location with a blue label, showing people dining.
- 商店街 (Shopping Street):** A central location with a blue label, showing a street scene with shops.
- 道の駅 (Road Station):** A location at the bottom left with a blue label, showing a building and a car.
- 駅 (Station):** A location at the bottom right with a blue label, showing a train platform and a train.
- Wi-Fi:** Multiple Wi-Fi icons (signal waves) are placed throughout the town, indicating available wireless internet.
- Information:** A blue label with a white 'i' icon and the text "Tourist Information" is located near the station.
- Mobile Services:** Several icons of mobile phones and tablets are shown, indicating the use of mobile devices for navigation and information.

- 多言語化
- 無料公衆無線LAN
- キャッシュレス決済環境
- トイレ洋式化・高機能化
- 手ぶら観光カウンター

- ナイトタイムエコノミー
- 屋外広場

- 段差の解消
- 子連れ環境の整備
- 近距離移動支援モビリティ

- ワーケーション環境
- ICTを活用したゴミ箱
- 多様な移動手段

- 観光案内所の整備
- EV急速充電器

等

補助率	1 / 2 等
対象地域	訪日外国人旅行者の来訪に向けて、受入環境整備の必要性が認められる地域

4. メタバース

メタバースとは、インターネット上に構築された三次元の仮想空間を指す。この仮想空間では、現実世界と同じようにさまざまな建物が立ち並び、ユーザーは自身の分身である「アバター」を使って、好みの服や靴、帽子などのアイテムを着用し、自由に空間内を散策したり、他のユーザーとコミュニケーションをとったりして楽しむことができる。

メタバースは主にゲーム分野で活用されているが、最近では、農林漁業体験等を含めた職業体験学習やリモートワーク、ビジネスの創出など、さまざまな用途で注目されている。



（焼津市では既に着手実績あり）

- 焼津市は、メタバース上のイベント「バーチャルマーケット 2022 Winter」に特設ブースを出展し、焼津市の魅力やふるさと納税品のPRを行った。ブースを訪れたユーザーは、「バーチャルマグロ解体ショー」に加え、船の上からマグロを釣ることができる「バーチャルマグロ一本釣り」など、臨場感のあるメタバースならではの体験ができた。
- さらに、焼津市のふるさと納税品として人気の「ネギトロ」や「カツオのたたき」、「生しらす」など自慢の地場産品が3Dモデルで展示され、ブース内から直接ふるさと納税寄付サイトに遷移し、その場で寄付を実施することも可能となった。



資料-画像：株式会社HIKKY

今後

焼津のさまざまな漁業や加工業などの関連水産業、漁港のしくみなどメタバース活用の体験学習型のコンテンツ開発と活用の可能性がある。